

ロッシーニの《ナブッコ》！？

水谷 彰良

本稿は、日本ロッシーニ協会紀要『ロッシニアーナ』第31号（2010年）pp.73-74の記述を増補改稿したものです。

ロッシーニの《ナブッコ》！

もう10年以上前の話ですが、外国の古書店カタログを見てびっくりしました。1856年に出版されたロッシーニ作曲《ナブッコ》の印刷台本が売りに出ているのです。「え？ ヴェルディの間違いじゃないの？」……百聞は一見にしかずと思って購入し、謎が解けました。タイトルに「カヴァリエーレ、ジョヴァッキーノ・ロッシーニの《コリントの包圍》の音楽を当て嵌めた聖劇（Dramma sacro / adattato alla musica / dell' Assedio di Corinto / del Cav. Gioacchino Rossini）」とあり、謝肉祭の最後の三晩にフィレンツェのサン・ジョヴァンニ・エヴァンジェリスタ教会にて上演と記されているのです（図版参照）。そして文献を調べると、初演は1850年の謝肉祭と同じ教会で行われたことが判りました。当時ロッシーニはフィレンツェに住んでいました。

台本のタイトル頁を転記すると、Nabucco / Dramma sacro / adattato alla musica / dell' Assedio di Corinto / del Cav. Gioacchino Rossini / e / da eseguirsi / le ultime tre sere del carnevale 1856 / nella / Chiesa di S. Gio. Evangelista del PP. delle Scuole Pie (以下略) となります。印刷台本（1856年）に記された登場人物は次のとおり。

ナブッコ：バビロニアの王（NABUCCO, Re di Babilonia）
セデーチャ：ユダの王（SEDECIA, Re di Giuda）
アザーリア：軍の司令官（AZARIA, Generale dell'armi）
ソフェル：ナブッコの将校（SOFER, Ufficiale[sic] di Nabucco）
エレアッザーロ：ヘブライの戦士（ELEAZZARO, Guerriero Ebreo）
パルミーラ：セデーチャの娘（PALMIRA, Figlia di Sedecia）
アンナ：パルミーラの友人（ANNA, Confidente di Palmira）
サライア：祭司長（SARAIA, sommo sacerdote）
カルデア人、ヘブライ人、占師の合唱（CORO di Caldei, di Ebrei, di Magi）

舞台はイェルサレム、劇は全2幕からなり、シェーナで区分された劇の構成は次のとおり。

【第1幕】

- 第1景 Scena prima：王宮のロビー（Vestibolo del Palazzo Reale）：セデーチャ、アザーリア、サライアと戦士たち（Coro: *Signor, un sol tuo cenno*）
- 第2景 Scena II：セデーチャ、サライアとアザーリア（Sedecia: *Libera è ancor Sionne*）
- 第3景 Scena III：パルミーラと上述の人物（Sedecia: *T'appressa, o figlia: questo giorno infausto*）
- 第4景 Scena IV：[無秩序に登場する] 上述の人物と戦士たちとヘブライの女たち（Coro: *Di morte il suon — mandò l'ostil masnada:*）
- 第5景 Scena V：イェルサレムの広場（Piazza di Gerusalemme）：ヘブライの兵士たちを追って舞台を横切るカルデアの兵士たち（Coro: *Dal ferro del forte:*）
- 第6景 Scena VI：従者を伴うナブッコと上述の人物（Nabucco: *Sorgete in sì bel giorno,*）
- 第7景 Scena VII：ソフェルと上述の人物（Sofer: *Trionfammo, Signor; ma il tempio ancora*）
- 第8景 Scena VIII：[護衛兵の間の] セデーチャと上述の人物（Nabucco: *Duce a' Giudei ribelli,*）
- 第9景 Scena IX：パルミーラ、ヘブライの女たちと上述の人物（Palmira: *Oh Ciel! Fermate...*）

【第2幕】

- 第1景 Scena prima：ナブッコの東屋（Padiglione di Nabucco）：ナブッコとパルミーラ（Nabucco: *Sgombra il timor. Il mio poter ti cinge...*）
- 第2景 Scena II：上述の人物、カルデアの戦士たち、カルデアの女たち、占師たち（Coro: *Un fortunate Imene*）
- 第3景 Scena III：上述の人物、[鎖に繋がれた] アザーリア、[兵士たちを伴う] ソフェル（Azaria: *Palmira?*）
- 第4景 Scena IV：ソフェルと上述の人物（Sofer: *Sionne in suon di sdegno*）
- 第5景 Scena V：寺院の中庭（Atrio del Tempio）：アザーリア（Azaria: *Avanziam... Questo è il tempio...*）

第 6 景 Scena VI : エレアッザーロと上述の人物 (Eleazzaro: *Ciel...chi vegg'io?*)

第 7 景 Scena VII : アザーリア ([Azaria]: *Nostro colpe tradiro ogni speme;*)

第 8 景 Scena VIII : アザーリアとセデーチャ (Azaria: *O Sedecia mio re!*)

第 9 景 Scena IX : パルミーラと上述の人物 (Sedecia: *Ciel! che vedo?*)

第 10 景 Scena X : ヘブライの女たち、エレアッザーロを伴うサライア、ヘブライの戦士たちと上述の人物 (Saraia: *Tutto percorsi il marzial recinto.*)

第 11 景 Scena XI : パルミーラとヘブライの女たち (Palmira: *L'ora fatal s'appressa*)

第 12 景 Scena XII : カルデア人たちと上述の人物 (Caidei: *Feriam, feriam,*)

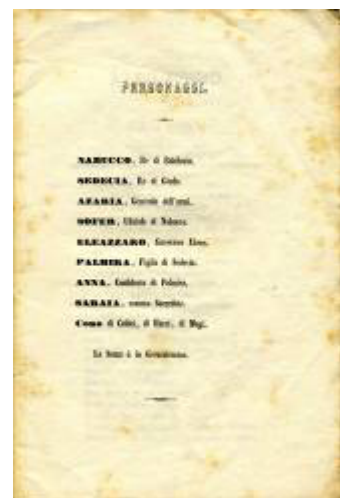
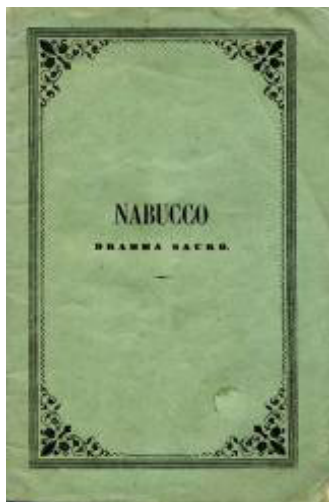
最終景 Scena ultima : ナブッコと上述の人物 (Nabucco: *Anche all'orgoglio*)

そもそも《マオメット 2 世 *Maometto II*》(1820 年ナポリ初演) のフランス語改作が《コリントの包囲 *Le siège de Corinthe*》(1826 年パリ初演)、これを第三者がロッシーニの許可を得ずにイタリア語に改作したのが《コリントの包囲 *Assedio di Corinto*》(1827 年ローマ。カリスト・バッシのイタリア語版は 1828 年パルマ) です。この伊語版をまた誰かが《ナブッコ》にしたことになりませんが、印刷台本には改作した詩人や音楽家の名前がありません。

でもなんだか変。オペラを教会で演奏(上演?)するのが不謹慎だから旧約聖書の題材で改作する、それは判ります。けれどもヴェルディの《ナブッコ [ナブゴドノゾル]》は初演(1842 年)から 2 年後の 1844 年にフィレンツェのペルゴラ劇場で上演され、1847 年にはフィレンツェでヴェルディ《マクベス》の世界初演も行われたのです。ヴェルディのことも《ナブッコ》のことも承知の上でロッシーニ作品を《ナブッコ》に改作するなんて、非常識ではないでしょうか。ちなみにこのロッシーニ版《ナブッコ》は、1865 年と 1903 年にも同教会で再演されたことが現存する印刷台本で確認できます。

ロッシーニ《ナブッコ》印刷台本より(フィレンツェ、1856 年。水谷彰良所蔵)

外表紙
タイトル頁
人物表



第 1 幕冒頭
第 2 幕冒頭
裏表紙

